

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870400425
法人名	有限会社ファミリエ
事業所名	グループホーム橙園
所在地	愛媛県八幡浜市保内町宮内1-583-1
自己評価作成日	平成26年12月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年1月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型サービス事業所である。利用者一人一人が地域住民の一員である。できる限り地域と一緒に、地域に守られて生きることが介護支援の軸である。利用者の持てる能力を地域とのつながりにおいて発揮できるようイベント参加も積極的にし、生活の枠も広がっている。地域の援助に感謝している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は「介護は接遇」と考えており、事業所内で接遇研修を実施している。職員は、利用者の気分の違い等も踏まえて言葉かけや対応方法も変えて対応されている。調査訪問時、職員は、昼食のお汁をテーブルに配る際、一人ひとりに、「熱いから気を付けて下さいね」と声をかけていた。職員は、食器を拭いたり、洗濯物をたたんだりすることをお願いするのではなく、「目につくところに置く」ことで利用者が「自発的に行う」ことにつながるよう、場面作りに努めておられる。

普段はご自分からあまりお話をされない方が、秋祭りの五っ鹿踊りの訪問があった際には、「昔踊っていた」ことを話されたようだ。施設長は、地域の方にお願ひして12番まである踊りをすべて踊っていただいた。その後もご本人は笑顔で五っ鹿のお話をされたようだ。利用者の「家族に迷惑をかけてはいけない」という思いから「ホームで最期を」と言われた方があったが、職員はご本人の普段からの思いを踏まえてご家族と相談して、最期はご家族が居る場所で迎えられるよう支援された。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム橙園

(ユニット名) サルビア

記入者(管理者)

氏名 有馬 房子

評価完了日 2014年 12月 14日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 利用者一人一人への介護支援が人としての尊厳を守る理念 に基づいているかどうか、介護計画、モニタリング、ケアカン ファレンスなど定期的に確認している。	
			(外部評価) 理念は、玄関や各ユニットに掲げている。管理者は、外部研 修等で理念について勉強して、職員に伝達研修を実施し、 事業所全体で理解して理念に沿った介護が実践できるよう 取り組まれている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 地域密着型サービス事業であることの基本姿勢で、利用者 共々、地域住民としてのあらゆる活動に参加している。公民 館活動、福祉団体、学校行事のお誘いや、狭義には高齢者 が道に迷った時などの保護、支援等、地域の一員として持ち つ持たれつづの関係構築している。	
			(外部評価) 施設長は、開設時から「利用者は地域の住民である」ことを 地域に向けて話してこられた。11月に地域で行われる「文化 の集い」時には、利用者と職員が一緒に作った壁画の作品 が展示された。作品作りの過程も写真付きで紹介して地域 の方に見ていただけるよう工夫された。橙園夏祭りは、毎年 多くの地域の方達の協力を得て開催されている。近くにある 系列の小規模多機能事業所には、定期的に詩吟、カラオ ケ、民謡、押し花、大正琴、音楽療法等のボランティアの訪 問がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議の一般公開で年間を通しての介護支援や活 動の報告をし、各小・中・高校生の施設見学、実習の支援、 認知症介護実践症例報告などは、依頼に応じた発信をして いる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議ごとに職員が研修報告をしており、それが介護実践につながっているかの論議や評価は常に行っている。会議構成委員の皆様にも時に研修参加(行政側発注)していただき、介護現場の実情を把握してもらっている。</p> <p>(外部評価) 会議は、近くにある系列小規模多機能事業所と合同で開催されている。年1回は「公開運営推進会議」を開催しており、今年も地域、ご家族、ボランティアの方々等60名程の参加があった。参加者からは、「認知症の事がよく解った」等の感想があるようだ。通常の会議には、利用者、ご家族はもとより民生委員、婦人会、日赤奉仕団、老人会の方等が参加されている。職員の健康診断結果がきっかけとなり、保健所の方の協力を得て、病気についての知識を深めるような研修を実施されたこともある。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議の構成員として自治体からの参入もあり、通常的に情報報告している。また、ケアサービスで支援を受けたい事柄には施設担当者に相談したり、市主催のサービス連絡会議にも取り上げてもらったりして、「質の向上」の後押しを得ている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時には、事業所からの報告を受け、市職員から助言等がある。職員は、八幡浜市主催の地域密着型サービス連絡会議や傾聴ボランティア講座、糖尿病サポーター研修に参加して、業務やケアに活かせるよう努めている。毎月2名のさわやか相談員の訪問がある。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 開設以来、利用者の身体拘束は一件もない。</p> <p>(外部評価) 日中は玄関等に施錠せず、又、利用者が併設デイサービスやユニット間でも自由に行き来ができるよう支援されている。調査訪問時、一人で出かけて行く利用者に職員が付き添って行く様子が見られた。職員は、利用者の所在確認に努め、さらに、自発的に行えるような作業等を用意する等して、利用者の役割作り等にも取り組まれている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	日常的には介護者の上から目線の言葉のやりとり、命令、無視等、利用者の尊厳を損なう介護支援とならないよう努めている。また、介護者の知識・技術の向上を図り、介護ストレス虐待の連鎖を防いでいる。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	自治体や社協主催の研修に参加。橙園内でも講師を招き学習している。この制度を利用者が活用される例もあり、施設も必要に応じた支援をしている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	入退去及び契約・解約は施設長がご家族に説明し双方納得で成立している。必要項目に応じて、管理者、介護支援専門員、医療連携看護師が同席し、役割分担している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	利用者に関する運営上事項には、都度、各ご家族後見者に文書説明し、同意を得ている。介護保険上の情報に関しては、運営推進会議の議題とし、年一回のまとめを地域に一般公開している。	
			(外部評価)		
			ご家族へは個別の便りを作っており、健康状態、作業活動、交流、連絡事項の項目に沿ってコメントを記入して送付されている。連絡事項として職員の紹介等も記入されている。偶数月には、系列事業所と合同で発行する「橙園便り」も同封されている。利用料を持参するご家族には、「何でも言ってください。その方がありがたいです」と意見をうかがい、気になることがあれば電話をくださるご家族もある。	事業所サービスを実際に利用する側からの声を集めながら、さらに今後の取り組み等について話し合ってみてはどうだろうか。開設10年を迎えるこの機会を活かして、利用者その人らしい暮らしを、ケアパートナーでもあるご家族とともに支えていけるような取り組みを工夫されてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月初め職員全員で業務カンファレンスを行い、各活動グループでまとめたことを職員全員に周知共有している。また、月下旬には管理者など役職が集まり、運営委員会を開き、各部署の業務体制など現状報告し、予定事項も話し合い、運営バランスをとっている。	
			(外部評価) 法人全体で職員の研修参加を積極的にすすめており、職員個々がスキルアップできるよう取り組まれている。又、内部研修内容は、運営推進会議時に報告されている。月1回の業務カンファレンスや各ユニットごとのカンファレンスでは職員の意見や提案を話し合うようになっており、利用者の席順や仲の取り持ち方等も話し合われている。「事業運営」「介護計画」「安全・整備・備蓄」「健康・衛生」「リハビリ」の委員会を作っており、職員はそれぞれに所属して、責任を持って活動する仕組みを作っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の資格、家庭事情など勤務条件を考慮しながら働きやすい勤務体制を組んでいるが、職員各々の思いやり連携で補い合っているのが現状である。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各自の能力に合わせた研修を受け、報告書を提出してもらい、介護への反映につながっているかを評価している。研修参加は機会のあるごとに行っている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) サービス連絡会議、運営推進会議、お互いのイベント参加、地域行事での合流等、同業者との交流は多数あり、サービス向上のバネ(参考)にしている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 人間関係や環境の変化など、落ち着かず不安な要素は何かを探り、原因を取り除いている。介護側で無理な場合は家族や親しい人にも協力していただき、働きかけの共有をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族の面会時には職員も、「リラックスして何でも話せるような雰囲気作り」に努力している。重大なご要望の場合は管理者、施設長へ報告している。「利用者にはやさしく、ご家族・関係者には礼儀正しく」を心がけている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>契約時の基本情報を熟解し、確認している。また、介護計画への取り入れの優先事項を見極め、その対応を職員間で連携するなど、見当違いをおこさないようにしている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者一人一人の個性を尊重した援助内容となるよう介護計画を立てている。一緒に日常生活の動作を行い、信頼関係を作り、できることが続けられるよう支援している。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>折りに触れてご家族に電話連絡し、利用者にも会話を楽しんでいただいている。また、月一回の「お便り」では受診状況、活動状況を報告し、イベントや行事のお誘いもしている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>面会が多いので、楽しく過ごせるよう配慮している。また、その時の写真を撮って送ったり、部屋に飾ったりして工夫している。また、ご家族も橙園の行事などに参加していただけるよう連絡している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎年、利用者個々の大切な人へ年賀状を書くことを支援されている。利用者から「自宅に帰りたい」と希望があれば、利用者の気持ちをご家族の方に伝える等して、事業所でも一緒に支援されている。毎日利用者に会いに来られる親族の方には、利用者と一緒に食事しながら過ごせるよう、食事を用意されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共同作業を多く取り入れ、一人一人のレベルに合わせた誘導と見守りをしている。会話には職員も加わり、利用者同士でコミュニケーションが取れるように支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) グループホームでの契約終了は、重症入院か看取り死亡であるが、入院されてもお見舞いに行ったり、亡くなられた後もお線香やお花をあげに行ったり、また、ご家族からは収穫物を届けてくださったり、親戚付き合いのように関係が続いているケースもある。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 居室で仏様のお守りをしていながら家の方を気にしたり、遠隔在住の息子さんが面会に来られる度に連れて帰ってと困らせたり、一人一人の切ない気持ちを受けとめられるよう努力しながら、日々の表情や言動に気をつけて対応している。ご家族や後見人の安心を得る手立てを考えることや、相談も大切であると思っている。 (外部評価) 普段はご自分からあまりお話をされない方が、秋祭りの五っ鹿踊りの訪問があった際には、「昔踊っていた。」ことを話されたようだ。施設長は、地域の方をお願いして12番まである踊りをすべて踊っていただいた。その後もご本人は笑顔で五っ鹿のお話をされたようだ。利用者の「家族に迷惑をかけてはいけない」という思いから「ホームで最期を」と言われた方があったが、職員はご本人の普段からの思いを踏まえてご家族と相談して、最期はご家族が居る場所で迎えられるよう支援された。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時の問診において、入居に至るまでの経過や家族環境を熟解し、安心して穏やかに生活していただける支援計画を考え、職員、家族で共有している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者の充実した生活が保障されるように、記録や申し送りにて情報を共有し、一人一人の状態を把握した介護ができるよう日々連携を心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 3か月ごとのモニタリングで支援内容が適切であるかどうかを確かめ合っている。ケアカンファレンスは月一回(状況変化時は随時)、過去3ヶ月の介護記録が判断評価のベースとなる。担当職員が記録を抽出し、プランとの整合性を全員で考え話し合う。その後、家族に説明し同意を得ている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、利用者ごとに「1人にひとつできる事、続けられる事」を採り入れて作成されている。できる事、続けられる事は、利用者ごとに一覧表にして居間に掲示されていた。介護記録は、医療、身体、精神状況、家族、他者交流等の項目に分けて記録しており、毎月行うケアカンファレンス時の資料にしたり、3ヶ月ごとにモニタリングして計画見直しにつなげておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日常的記録は介護計画に基づくよう努め、新たな気づきや本人の変化などは申し送りで共有しており、それによって介護計画の変更となることもある。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 心身の異常、変化時の対応は家族の了解をとって医療機関との連携を迅速に行っている。 また、遠隔在住家族の突発的な出来事への対応や近親者葬儀の参列支援等、利用者を通しての介護以外の相談も多々ある。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 公民館活動やイベント、ボランティア活動として地域の清掃作業等、地域住民の人達と一緒に参加して楽しんでいる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 全利用者の各々の主治医との連携で心身を守っている。通院援助では家族へ状態説明を都度行い、往診(橙園での在宅療養)者には施設・家族あての療養管理指導もある。医療連携機関は内科、整形外科、脳神経科、歯科と多岐にわたっている。</p> <p>(外部評価) 以前から診てもらっている病院に、続けて受診できるよう支援されている。定期受診時には、看護師資格を有する職員が同行して、結果については、電話でご家族に報告されている。月1回、歯科医の往診・歯科衛生士の口腔リハビリの訪問がある。皮膚科の往診も受けれるようになっている。急変時には、近くにある個人医院の往診が受けられるようになっており、土日にはかかりつけ医と相談して救急車を呼ぶようになっている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 朝、夜勤者からの申し送りは看護師が受けている。状態により受診したりDr.に相談したり、利用者の健康を守る軸となっている。夜間の突発的な対応もその日の日勤の看護師に連絡を取り、契約訪問看護師の出張もある。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入院が必要となった場合は主治医が紹介、情報提供等に関わり、退院時と退院後の処遇については、入院中に病院関係者、家族との相談のもと決定される。おおかたの場合帰園を希望され、体制を整えて受けることになり、再度主治医との連携が始まる。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 重度化や終末期のあり方については「橙園での看取り」を入居契約時より強く希望されている方が多いが、やはりその時の状況よっての判断が必要と考える。都度、ご家族との話し合いを行っている。</p> <p>(外部評価) この1年間に3名の利用者を看取られた。医療機関の協力を得て口腔マッサージや食事形態を工夫して、最後まで口から食べられるよう、力を入れ支援された。秋祭り時は、居室の中に獅子舞に入ってもらい、頭をパクパクしてもらった。又、誕生日には、利用者が居室に入って歌をプレゼントされた。施設長は、終末期の支援について「今日一日の安心感や満足感を感じていただきたい」と話されていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の思わぬ事故発生に関しては、重軽に関わらず全員で再発防止を含め見直し検討をしている。自治体に発生と対応の届出義務があり、当事者がまとめ提出している。急変時の対応については、病院、家族への通報、救急車の要請と、協同作業が多く、連携が必要と認識し、勉強会を行っている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 園内での避難訓練は年2回火災、地震、津波、原子力災害等様々な想定のもと柔軟に対応できるように努めており、消防署員の協力・指導も受けている。また、年1回地域の避難訓練にも利用者共々参加している。実際の地震・津波時にどうなるか、マニュアルどおりにはならない不安はある。 (外部評価) 年2回消防署の協力のもと避難訓練を実施しており、さらに、事業所独自で月1回、夜間・日中の火災等を想定した避難訓練を行っている。市が実施した防災訓練時には、利用者と一緒に公民館へ避難できるよう取り組まれたが、坂道が急であり、「車いすでの避難ができない」ことが解ったようだ。事業所は原子力災害の危険区域でもあるため、避難訓練計画書を作成し、松山市に受け入れ事業所を確保している。食料品やおむつ等を事業所事務所に備蓄しており、消費期限のある物は交換等して管理されている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 認知症状の度合いによって個別支援の仕方は違う。癖や習慣、生活行動の一つ一つに人格尊重の配慮が必要と心得、訪室時ノックや声かけを行っている。また全介助者には危険防止、孤独防止の気配りをしている。 (外部評価) 管理者は「介護は接遇」と考えており、事業所内で接遇研修を実施している。職員は、利用者の気分の違い等も踏まえて言葉かけや対応方法も変えて対応されている。調査訪問時、職員は、昼食のお汁をテーブルに配る際、一人ひとりに、「熱いから気を付けて下さいね」と声をかけていた。職員は、食器を拭いたり、洗濯物をたたんだりすることをお願いするのではなく、「目につくところに置く」ことで利用者が「自発的に行う」ことにつながるよう、場面作りに努めておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 通常は1日の生活プログラムに沿って声かけし共同しているが、無理のないよう参加・不参加は自由にしていただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の顔を見て、その日の体調に合わせた作業やレクリエーション、外出などの声かけ、援助を行っている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 一緒に服を選び、毎日同じ服にならないよう配慮しながら好きな服を着てもらっている。外出時にはおしゃれを楽しめるよう気を配っている。自分でできる人には見出しなみを整えていただくよう声かけしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 家庭で行う食事作業を継続していると思ってもらえるように、食事の準備、盛り付け、後片付けなど利用者に声かけて手伝ってもらっている。柿や大根などで多量の保存食を作るなど、いきいきと作業されている。	
			(外部評価) 法人の栄養士が献立を作成し、ユニットごとに調理されている。パンの好きな利用者が多く、週1回、朝食はパン食になっている。好き嫌いのある利用者や塩分制限の必要な方にはメニューを変更したり、薄味にして対応されている。調査訪問時、昼食前に職員指導のもと口腔体操を行っていた。刺身を好む方が多く、週1回は刺身がメニューに上がっている。又、雑煮が大好きな方も多く、利用者の嚥下状態に応じておもちを小さく切る等、咽に詰めるような危険がないようにして支援されている。食後、自分の食べた食器を下膳して、水道で洗い流してから洗いおけに入れる利用者の様子が見られた。台拭きをする利用者もあった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 高齢者の必要栄養素とカロリーを考えた献立でバランスをとっている。(1日1200～1400kcal)体力や好みによってばらつきもあるが、調理の工夫などとして提供している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯科医の指導を定期的に受けながら、誤嚥性肺炎の予防としての口腔内の清潔保持や嚥下促進の口腔ケアを毎食後行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 身体機能低下による失禁があっても排泄はトイレで行う習慣を続けている。排泄パターンに応じた声掛け誘導や車椅子使用者への危険防止のための見守りを行っている。夜間排尿で目覚める場合、トイレに誘導する以外はオムツ対応で睡眠重視としている。 (外部評価) 以前、尿管カテーテルを留置している方があったが、排尿訓練を行い、現在は布パンツで排泄が自立しているようなケースがある。普段は紙パンツを使用するが、状態に応じておむつで対応する等、体調をみながら支援を探っているようなケースがある。夜間においても、ポータブルトイレは使用せず、トイレで排泄できるよう支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分や繊維質の多い野菜を残されると便秘になるため、おやつ時に果物やコーヒー、ジュースで補うようにしている。大抵は緩下剤の処方があり、消化器系のトラブル防止に留意している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 体調を見ながら週2回の入浴を声かけで行い、入浴以外に保清のためのシャワー浴も行っている。洗身、洗髪、衣服の着脱と、見守り不用の人は一人もいない。利用者がゆったりと入浴できるよう配慮し、介護度の高い利用者には二人体制で介助している。 (外部評価) 午後に週2回入浴を支援されている。介護度重度でベッド上で生活する方は、清拭で対応し、手や足浴を支援されている。入浴を好まない方は、たとえば「温泉のお湯ですよ」等と言って誘うこともあるが、それでも難しい方には、「週2回が決まりになっている」ことを伝えて入浴につなげている。夕方や夜間の入浴を希望する方もあるが、職員の体制上対応が難しいことをお話して納得してもらっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 居室やリビングを自由に本人のペースで生活できるよう援助している。また、体調に合わせて日中の臥床も取り入れている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 誤薬防止のため介護者は配薬された薬が間違いないか確認し、服薬介助した薬名を記録、サインしている。利用者の身体変化によりDrから処方薬の変更もあるが、都度看護師から変更指示の申し送りをしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活の作業の流れの中で利用者が各々できることや興味の向くことに自然に参加できるよう設定工夫している。義務的参加でなく興味を持って喜んで参加してもらえるよう誘導したいと思っている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の希望や思いに寄り添えず、無断退居で探すこともあるなど個別の日常的な外出支援は体制的に難しいが、全体的なプランとしての外出は度々行う。園庭に出る、畑作業をする、イベントに参加する、お参りをする、ドライブをする、ご家族と外食する、受診の帰りに欲しいものを買う等、すべて気分転換を意図して行う。 (外部評価) 日常は、近くの畑での農作業のため、外に出たり日向ぼっこできるよう支援されている。又、近くの系列小規模多機能事業所での行事に参加することも、大切な外出の機会となっている。近所の神社に初詣に出かけたり、つつじ、さくら、コスモスの季節には、スーパーで利用者の好みの弁当を購入して出かけている。利用者の中には、「寝とった方がええ」と言われる方もあるようだが、「皆で一緒にいきましょう」と誘うと出かける気持ちになるようだ。	事業所で計画を立てて外出する機会はあるが、さらに、利用者の希望に沿った個別の支援等についても工夫されてはどうか。ご家族と外出を楽しめるようなサポートや、仲良し同士で出かけるような機会等にも取り組まれてはどうか。管理者は、今後、職員2名で同行する等して、個別の買い物も支援したいと話しておられた。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 財布をバッグに入れてバザーなど地域イベントでの買い物を楽しんでもらっている。アイス、ポテトなど食べ物を買われたりもするが、中には「ソックスのしまり具合で買うのをやめた」方を近くのマーケットにお連れして気に入ったものを買われる支援に切り替えたこともある。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話での交流でご家族の安心は得られるが、利用者自らの発想は見られなくなった。努めてつなぎをするようにしている。手紙、はがきは部屋の壁に貼ったり、返事を手伝ったりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 毎日リビング、台所、居室の清掃、温度調節を行っている。季節の花や壁面飾りをする事で季節感を感じてもらえるように心掛けている。	
			(外部評価) 玄関前には門松が飾られてあり、花壇にはパンジーや葉ぼたんが植えられていた。入口までは両側にスロープが設置されている。居間の一角は、一段高い畳の間になっており、来客者が過ごしたり、利用者が洗濯物をたたんだり横になってくつろぐ場所になっている。洗面台等の各所には水仙の花が飾られていた。居間には、加湿器を設置して湿度管理をされている。敷地内には東屋があり、気候のいい時はお茶を飲んだりされる。秋には畑でさつまいもの収穫を楽しまれた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 日中は自室で一人でいるよりリビングで過ごされる方が多く、仲良くテレビを見たり、洗濯物を畳んだり、うたた寝したり、塗り絵をしたり、思い思いに過ごしてもらっている。さみしそうにされている時は職員が寄り添い話を聞いてあげている。また、食事等での席に配慮し、トラブルなく過ごせるように努めている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居の際に今まで使っていたものを持ってきてもらい、慣れたものを使ってもらっている。壁の飾りや日用品の置き場所、大切な物のしまい場所等は、担当職員がさりげなく把握しながら、居室は自分の家であるので整理整頓を自分で続けられるよう援助している。	
			(外部評価) タンスやテーブル等を持ち込んでいる方もいる。居室は利用者の身体状況に合わせてフローリングにベッド、畳にベッド、畳に布団と、それぞれ利用者の状態に応じて対応されている。布団の上げ下げをご自分で行う利用者もある。お孫さんの結婚式に出席した際の写真を飾っている方もあった。各居室前には、それぞれに輪じめが飾られていた。利用者が居室不在の時間は、窓を開け換気している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各部屋の入口に名前を付けたり、トイレの場所がわかるように表示している。廊下にはできるだけ物を置かず、歩行の安全や車椅子移動に配慮している。	